

令和6年度 学校関係者評価報告書

佐用町立三日月中学校

1 中期的な学校運営の目標・方針

- (1) 学力の基礎・基本の徹底と定着を図り、次代を担う生徒の育成を目指す。
- (2) 「チーム三日月」の保・小・中連携をさらに育成し、郷土を愛する子どもを育てる。
- (3) 全職員が、生徒の変化に気づき、情報交換するとともに、素早く行動する。

2 年度の重点目標

- | | |
|------------------|------------------------|
| (1) 安全な学校づくり | ⑤ 特別な支援を要する生徒への支援体制の確立 |
| (2) 安心できる学校づくり | |
| (3) 生きる力を育む教育の推進 | (4) 子どもたちの学びを支える仕組みの確立 |
| ① 確かな学力の育成 | ① 組織力の強化と教職員の資質能力の向上 |
| ② 豊かな心の育成 | ② 連携教育の推進 |
| ③ 健やかな体の育成 | (学力の向上、個に応じた支援、社会性の育成) |
| ④ 自立して生きていくための支援 | |

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・全体傾向を把握するために、4段階の回答を数値化して比較検討する方法は適しているが、絶対数が少ないこともあるのでそれだけに留まらず、さらに個々に焦点を当てる取組のヒントを得ることができる。とりわけ生徒・保護者のD評価、教職員のC評価には改善すべき課題が含まれているように思われる。その次の取組を具体化する活力源と捉え、前進してもらいたい。
 ・評価の実施時期は、体育祭や文化祭を経験し、学校生活も落ち着いた頃でよいと思う。評価項目によってはBとCの間が必要な場合があると思う。
 ・評価項目と内容は問題ないと思うが、生徒と保護者の中でDなどの低評価をした理由を記述できる評価にしてはどうか。

5 総合的な学校関係者評価

・参観時の感想として、落ち着いた学習態度で、真摯に課題に取り組む姿勢がよかった。強いてあげると、教科や学習内容にもよるが、おとなしすぎる感じがした。疑問を持ち、積極的に質問をして、学習内容を積極的に吸収しようとする覇気・意欲にやや希薄さを感じた。話し合い活動等、集団で意見を交えながら討議する授業展開がもっとできるように思う。生徒は教えてもらったことを受け止める力は十分にある。
 ・文化祭の発表では、どの生徒も与えられた役割で責任を果たし、全体としてまとまりのある発表ができていた。全校劇では配役だけでなく、裏で劇を支える重要な役を担ったことで、すべての生徒は充実感を抱いたに違いない。
 ・「年度の重点目標」が多く、達成するのが大変ではないかと感じる。
 ・総合的に見ると、生徒対生徒、生徒対教職員といった、対人関係に関する不安定さのように思える。受け身で待つのではなく、できる限り機会を設け、意思疎通を図る他ないと思う。(保護者対教職員も同様)
 ・学校運営、教育課程、課題教育に課題はあるものの、平均した評価(達成状況)が良い(b)以上であることは、経営方針・目標に向かって教職員が工夫改善しているように思う。
 ・それぞれの生徒に対して、教職員は必要な支援やアドバイスができてきていると思う。
 ・積極的な小中連携の推進は評価できるが、中学生にとって何を目的に実施するのかを明確にさせる必要がある。(連携が目的ではない)

3 学校自己評価結果 [a…優れている(75%以上) b…良い(74%~55%) c…おおむね良好(54%~40%) d…要改善(40%未満)]

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校運営	① 生徒のことをよく理解し接する。	a	A ・組織的な生徒理解に努めているが、さらに学校の取組や生徒の様子を保護者に情報発信する必要がある。 ・生徒会専門委員会や学級の一員である自覚と責任を持たせ、すべての生徒に役割を与えて取り組ませている。 ・将来に見通しが持てない生徒が増えており、教育活動全体を通してこれからの生き方や望ましい職業観につながるキャリア教育に取り組む必要がある。 ・学校生活や行事など、教育活動の取組や生徒の様子を定期的に保護者に伝えている。 ・日常的に生徒一人一人に話しかけるなど、生徒と向き合える時間を増やして相談しやすい関係づくり、生徒との信頼関係を高める必要がある。
	② 委員会活動や係活動に積極的に取り組ませる。	a	
	③ キャリア教育をすすめる。	b	
	④ 学校だよりや学級通信などを読みやすいように作る。	a	
	⑤ 生徒に相談されるようにする。	b	
教育課程	① わかりやすい授業づくりに努め、意欲的に取り組むよう工夫する。	a	A ・複数指導、ICT端末の効果的な活用でわかりやすい授業づくりに努め、昼休みなど授業以外に質問しやすい時間を設定している。 ・長期休暇や日々の課題点検等を行い、期限内に提出できるよう声掛けをしているが、家庭学習の大切さをさらに理解させる必要がある。 ・登下校や授業など、職員から積極的に大きな声で挨拶をして習慣づけている。 ・昨年度、頭髪基準や服装規定など、全生徒で学校生活の決まりを検討する中でルールの必要性を理解させ、主体的にきまりやルールを守る生徒の育成を目指している。 ・生徒会を中心に企画・運営をし、生徒一人一人に役割と責任を持たせ、行事の成功に向けて取り組ませながら充実感や達成感につなげている。
	② 家庭学習がきちんとできるようにする。	b	
	③ 大きな声で挨拶や返事ができるようにする。	a	
	④ 学校や社会のルールを守れるようにする。	a	
	⑤ 体育祭、文化祭等でやりがいや充実感を感じるようにする。	a	
課題教育	① 人権学習を積極的に進める。	a	B ・道徳のみならず授業や部活動など、全教育活動を通して周りの人を大切にできる集団づくりに取り組んでいる。 ・教育活動全体を通して、自分と他者との違いを認める寛容な心を育て、よりよい人間関係づくりに向けた支援を継続させる。 ・清掃方法を正しく理解させ、短時間で効果の上がる清掃活動を体験させながら、美化活動に取り組んでいるが、家庭でも実践できるよう声掛けが必要である。 ・必要な範囲で感染症予防策を継続させ、自他の健康に配慮した生活を送らせている。 ・ボランティア活動の種類や方法を理解させ、人のために力になれる体験を積み重ねながら地域社会で貢献できる人材育成を目指す。
	② 友だちと仲良く生活できるようにする。	b	
	③ 清掃美化に積極的に取り組ませる。	a	
	④ 感染症の予防に努めさせる。	a	
	⑤ ボランティア活動の大切さや重要性に気付かせる。	b	

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・①で低評価(D評価)の生徒1人への個別対応を要する。何気ない会話の積み重ねにより、生徒との信頼関係を高めてほしい。三者面談の時間をもう少し長くしてほしい。 ・①について、教職員は生徒一人一人を大切に接していると思う。 ・③は、いつ、どの活動がキャリア教育につながるのか整理して取り組む必要がある。 ・③は、情報が多方面化し、生徒は簡単に情報を得やすい一方、理想的でない将来像を描きやすくなり、生徒にとって逆に厳しいのかも知れない。 ・⑤の結果より、相談したい思いのある生徒から教師の元へ行かせるよりも、教師の時間的な負担が増えるが、すべての生徒と面談する機会をさらに増やすしか方法がないように思う。
・この分野の①と③で、生徒と教職員の評価で20ポイント以上の差がある。 ・生徒数減少に伴い、学校行事や部活動の在り方に工夫が必要である。 ・②の結果、生徒・保護者・教職員の差が大きい。教職員は高評価だが、生徒はもっと頑張る必要があり、意欲の表れなのか疑問である。 ・③の結果、質問や意見を出させる際、教職員の工夫に対しての効果がやや発揮できていないのではないかと。ディスカッション方式を採り入れるのも工夫の一つである。 ・③の結果、生徒は高い評価をしている。指導効果を発揮し、日常生活でも常態的に実践できていることがわかる。 ・三中ソーランを文化祭に移行したのは見応えがありよかったが、体育祭が少し物足りなさを感じた。
・自分と違う意見や考えを尊重することも指導してもらいたい。 ・②の結果、生徒と保護者の評価が前年度より低下している。その理由が知りたい。 ・②は、生徒数も減る中、多感な年頃で未熟な生徒にとって、周りの大人の目配りが昔よりも必要であると感じる。 ・④では、冬季に流行する感染症は受験生にとっては脅威になり、予防等の情報提供、日常的に体調管理の大切さを伝えてほしい。 ・⑤の評価結果より、生徒だけでなく保護者のボランティア意識が低い。